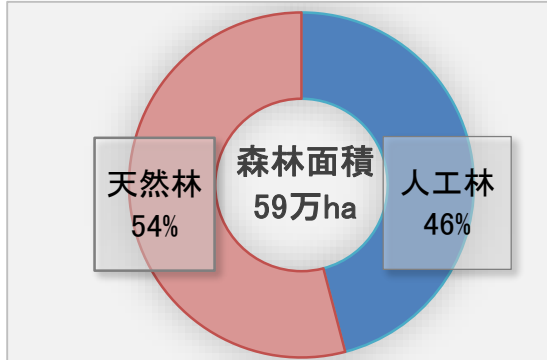


# 再造林の推進に向けた取組について

## 1 再造林を取り巻く状況

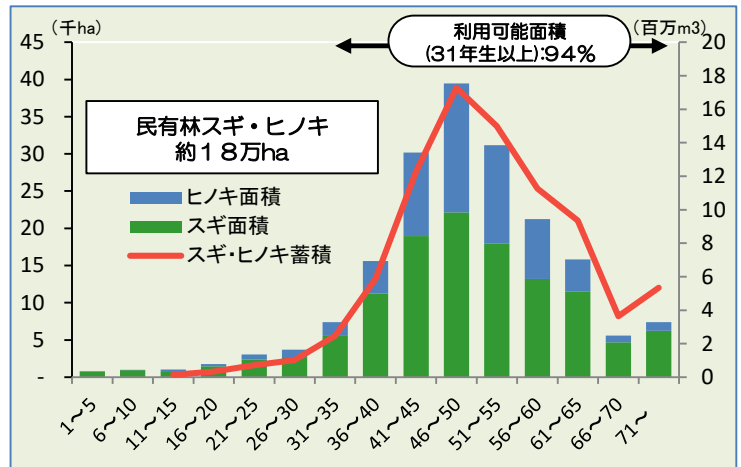
### (1) 森林資源

森林面積	59万ha	全国12位(九州1位)
うち人工林面積	27万ha	全国11位(九州3位)



- 県土の約6割は森林
- 森林面積は九州1位, 人工林面積は九州3位
- 民有林のスギ・ヒノキ人工林は, 9割が利用可能

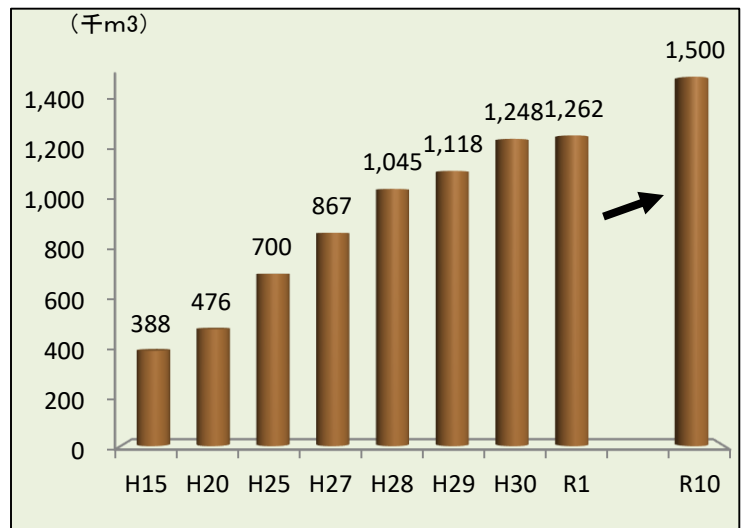
民有林のスギ・ヒノキ人工林面積及び蓄積



### (2) 県産材の生産量

- 森林資源の充実や大型木材加工施設, 木質バイオマス発電施設の稼働, 東アジアへの木材輸出等により, 生産量が増加
- 平成28年度には生産量が25年ぶりに100万m³を突破

令和10年度目標 150万m³

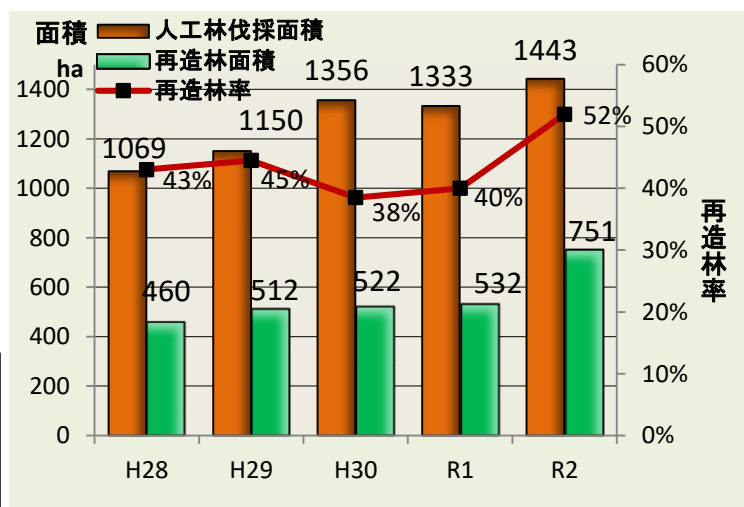


### (3) 人工林伐採と再造林の状況

- 人工林の伐採が増加する一方で, 再造林率は5割程度



「木材の安定的な供給」や「森林の有する公益的機能の発揮」を図っていく必要



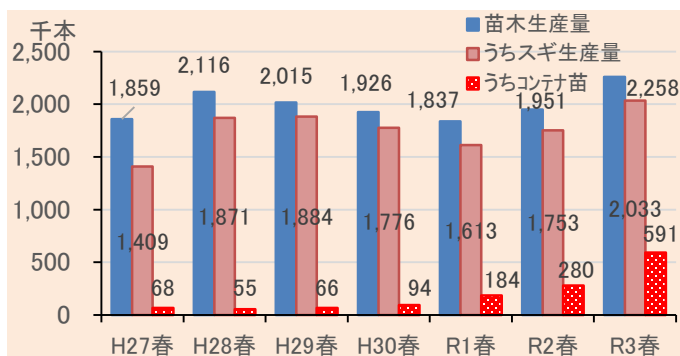
## (4) 林業就業者数の推移

- 令和元年度末の林業就業者は、1,418人で近年は緩やかな減少傾向で推移
- 森林組合の造林作業班員数は減少



## (5) 苗木生産量と需要量の推移※速報値

- 令和2年度の苗木生産量は、約226万本、うちスギ生産量は約9割を占める約203万本で、ともに前年度より増加
- コンテナ苗生産量も大幅増加



## 2 再造林の推進方針

### (1) 県森林・林業振興基本計画

「未来につなぐ多様で健全な森林づくり」と「人が輝き地域が潤う林業・木材産業の実現」を目指して

#### 【目標】

- 再造林面積の倍増

[平成29年度]

512ha/年



[令和10年度]

**1,200ha/年**

### (2) 再造林に関する基本的な考え方

#### ○ 傾斜が緩やかで、林地生産力が高い人工林の伐採跡地

→ 木材生産機能の維持と併せて、公益的機能の高度発揮を図るため、伐採後は確実に再造林を実施

#### ○ 急傾斜地や林地生産力の低い人工林の伐採跡地

→ 広葉樹や針広混交林へ誘導し、公益的機能の向上を図る

再造林を推進するため

### (3) 具体的展開方策

#### ① 造林・保育コストの低減

- ・ 伐採、地拵え、植栽の一貫作業による作業効率の向上
- ・ 成長等の優れた新たな植栽品種及び樹種、植栽本数の検討
- ・ シカなど獣害に対する効果的な被害防止施設の設置

#### ② 造林・保育に必要な労働力の確保・育成

- ・ 林業従事者の就労条件の向上と新規参入の促進
- ・ 植栽・保育作業における技術力の向上
- ・ コンテナ苗を利用した造林作業の通年化や林業事業体間の連携促進

#### ③ 優良苗木の安定供給体制づくり

- ・ 苗木の生産増大に向けた母樹園や生産設備の整備
- ・ 苗木生産者の確保及び生産技術の習得促進
- ・ 苗木の需給情報の共有

#### ④ 再造林推進に係る体制づくり

- ・ 計画的な伐採・再造林を進めるための森林経営計画の策定促進
- ・ 伐採・再造林に関する林業事業体の自主規範の策定促進
- ・ 主伐から再造林・保育に至る施業提案能力を有する森林経営プランナーを育成

### 3 再造林推進の主な取組

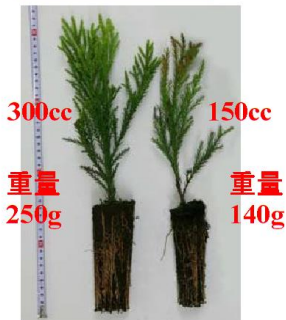
#### (1) 造林・保育コストの低減

- ・ 伐採、地拵え、植栽の一貫作業による作業効率の向上
- 県内各振興局において、一貫作業や事業体間の連携を推進



(伐採時に使用する高性能林業機械による同時地拵え)

#### コンテナ苗



#### 再造林の推進に関する研究

- スギコンテナ苗量産技術の開発
  - 下刈りの時期分散や回数削減に関する研究
- [森林技術総合センター]

- ・ みんなの森づくり県民税関係事業による苗木購入への助成
- H26 ~ R2 平均実績 359ha/年



(低密度植栽)

#### (2) 造林・保育に必要な労働力の確保・育成

- ・ 林業就業者の就労条件の向上と新規参入の促進
- ・ 植栽・保育作業における技術力の向上



(新規就業者への技術研修)



(コンテナ苗の植栽作業)

- ・ コンテナ苗を利用した造林作業の通年化や林業事業者の連携促進



(スギのコンテナ苗)



(伐採事業者による植栽作業(地拵え))

### (3) 優良苗木の安定供給体制づくり

- ・ 優良苗木の生産増大に向けた採穂園整備  
や生産施設整備
  - 個人母樹園の植え替えへの助成
  - コンテナ苗等の生産施設の整備支援
  - 苗木生産者の確保・育成



(優良品種の採穂園)



(コンテナ苗生産施設)

- ・ 苗木需給調整の機能強化
  - 林業用優良種苗の需給情報の共有  
を図るため林業用種苗需給連絡協議  
会を年2回開催し、需要に見合う計画的  
な苗木生産・供給が出来る仕組みを構築



(林業用種苗需給連絡協議会)

### (4) 再造林推進に係る体制づくり

- ・ 計画的な伐採・再造林を進めるための 森林経営計画の策定促進
  - 令和2年度末認定面積:約111千ha (令和5年度末目標:124千ha)
- ・ 伐採・再造林に関する素材生産者団体等の自主規範等の策定(H28.2)  
認証の開始(H30.7~)
- ・ 森林経営プランナー育成研修の開催
  - 一般基礎研修(7月), 経営管理基礎研修(9月), 経営  
技能向上研修(11月)を開催。  
「間伐」や「主伐から再造林・下刈」に至る一連の施業  
提案能力」を有する, 森林経営プランナーを育成  
〔令和2年度末現在〕  
現役人数289名  
(前年比+15名)



(森林経営プランナー育成の研修状況)



(森林経営計画策定のための話し合い活動)



(林業関係団体によるCRL認証授与式)